

# 令和3年度学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立加賀聖城高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果 ( )は昨年度	分析（成果と課題）及び改善等
1 生徒の1人1台端末の効果的な利活用に向けた校内研修会の実施、定通連携の公開授業への積極的参加等を通して、授業や学校環境のユニバーサルデザイン化を推進することで、生徒の授業満足度を高め、安全・安心な学校づくりを目指す。	① 授業や学校環境のユニバーサルデザイン化という観点を踏まえ、生徒の基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。	授業がわかりやすいと答えた 生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	B 96.0%  (97.8%)	ほとんどの生徒が「授業が分かりやすい」と答えており、授業内容や教員の指導に対して肯定的である。今後もさらに授業改善に努め、生徒の興味関心を高める工夫に取り組んでいく。
		授業のユニバーサルデザイン化により、生徒の学習環境が改善したと答えた教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	D 66.7%  (88.9%)	生徒が見通しを持って学びやすい授業展開とするため、授業のユニバーサルデザイン化を行っている。しかし、ICTの効果的利活用を重点的に推進したため、教員の優先度が低下した。今後、ユニバーサルデザイン化を念頭におき、ICTの利活用を通して、多様な生徒への効果的な授業を進めていく。
		定通連携の公開授業も含め、他の授業を見学した回数の平均が A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 3回未満	後期  実施予定	/
	② 1人1台端末の効果的な利活用に向けて、ICT機器を活用した工夫された授業を展開し、生徒の学習効果の向上を目指す。	タブレット端末等のICT機器を効果的に利活用した授業を行なった教員の割合 A 80%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	B 77.7%  (今年度より実施)	生徒が主体的にChrome book等のタブレットを活用する授業を、大部分の教員が、毎週1回以上の実践している。今後、さらに学習効果の向上を目指した授業実践に意欲的に取り組んでいく。また、ICT機器を利用した授業を全教員が取り組むように、利活用の推進を進めていく。

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果 ( ) は昨年度	分析（成果と課題）及び改善等
2 総合的な探究の時間を中心とし、生徒の興味・関心に応じた分野で地域学習を実践することにより、生徒の自尊感情を高め、充実した学校生活を送れるよう支援し、社会人として必要な人間力の育成を図る。	① 日々の声掛け等の、粘り強く地道な指導を続け、生徒の基本的な生活習慣を確立する。	欠席・遅刻をしないように努めている生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満  3度の食事をとっていると回答した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	A 76.5%  (75.0%)  D 47.1%  (50.0%)	1ヶ月ごとの皆勤者表彰を行うなど、欠席・遅刻をせず、時間を守ることの大切さを全教職員で指導している。そのため、76.5%の生徒が欠席・遅刻をしないように努めている。今後も日々の声かけを積極的に行い、生徒が基本的な生活習慣を確立するための指導を行う。  3度の食事を摂っていると回答した生徒は、半数に達していない。摂らせていると答えた保護者も半数程度である。「ほっかほかタイム」等の食育を通して、身体的な健康維持だけでなく、基本的な生活習慣確立のために、食事の大切さを日々伝えていく。
	② いじめを含め問題を抱える生徒の早期発見と支援を行い、問題行動の未然防止を図る。	支援連絡会やいじめ対策委員会を通して、生徒の現状を理解し、支援ができていると評価する教員が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	A 100%  (100%)	先生が親切に相談に応じてくれると答える生徒は88.2%、保護者は93.4%である。今後も常に個々の生徒の現状理解に努め、アンテナを学校生活全体に張り巡らせる。安全安心な学校づくりに取り組んでいく。
	③ 総合的な探究の時間等で生徒の興味・関心に応じた分野で地域学習を実践する。	充実した取組ができたと回答した生徒の割合 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C 64.7%  (87.5%)	昨年度より生徒が希望した3グループに分かれての活動を行っている。しかし、コロナ禍のため、活動内容が制限されている。今後、出来るだけ生徒の興味関心を喚起しながら、効果的な地域学習を進めていく。
	④ 地域の各種行事やボランティア及び、地域貢献に関わる活動を実践する。	地域の各種行事やボランティア及び、地域貢献に関わる活動に参加した生徒の割合 A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	D 17.7%  (18.8%)	昨年度と同じく、今年度もコロナ禍のために「大聖寺町中クリーン作戦」を中止とした。今後、学校行事や総合的な探究の時間を通して、高校生からの地域貢献の重要性について伝えていく。

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果 ( ) は昨年度	分析（成果と課題）及び改善等	
3 生徒の能力や特性に応じた個別の支援計画を早期に作成し、共有し、活用することで、生徒の進路実現の充実を図る。	① 生徒が、自己の能力・適性を理解し、学習意欲の向上を図れるように、資格取得に向けた指導を行う。	検定・資格取得・コンクール出展に取り組んだ生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	後期  実施予定	/	
	② 卒業までを見通した指導計画に基づき、生徒各人の能力・適性に応じた支援・指導を行う。	自己の進路に関する関心が高まったと回答した生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B 70.6%  (68.8%)		例年7割程度の生徒が、自己の進路に関する関心が高まったと回答している。今後、校内での進路セミナーや定通企業ガイダンスの取り組みに加えて、日頃の授業や面談等でも進路意識の高揚を図る。
	③ ハローワークや地域の企業等と連携して、生徒の就業の支援・指導を行う。	就業率が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	B 64.5%  (55.9%)		調査時の就業率は64.5%であった。コロナ禍でアルバイトを控えた生徒もいる。今後、ハローワークや地域の企業等と連携を深め、生徒の自己実現力を高めるためにも、就業率を上げていく。
4 校務分掌の適切な割り振りや業務遂行の協働を進め、教材研究や生徒理解の充実を図る。	① 職員間の横の連携を強め、積極的に協働し、生徒理解に取り組む時間を確保する。	個々の生徒について、より理解が深まったと感じる教員が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	後期  実施予定	/	